

## コウノトリが飛来し、ホンモロコが育む 渡良瀬の未来

栃木県小山市 市長  
大久保寿夫氏

皆様、こんにちは。私は、栃木県小山市長の  
大久保寿夫です。

本日は、このような貴重な機会を与えていただき  
ましてまことにありがとうございます。今日は鳥の  
話が多いのですが、私はその「トリ」を努めさせてい  
ただきます。どうぞよろしく願いいたします。これ  
より「コウノトリが飛来し、ホンモロコが育む 渡良  
瀬の未来」と題しまして、報告をさせていただきます。

まず、小山市が世界に誇る3つの宝を紹介させ  
ていただきます。ひとつ目の宝は、2012年ロンドン  
オリンピックで銅メダルを獲得し、2013年開催の  
世界水泳で2個の銀メダルを獲得したマルチスイ  
マー萩野公介選手。また、ロンドンオリンピックで  
銅メダルを獲得し、世界柔道で3連覇を達成した  
海老沼匡選手はともに小山出身でございます。そ  
して、今年の日本シリーズで、福岡ソフトバンクホ  
ークスを日本一に導いたキャッチャーの高谷裕亮  
君も小山出身でございます。世界で活躍している  
若者たちが宝となっております。2つ目の宝は、渡  
良瀬遊水地をはじめとする自然です。2012年7月  
3日にラムサール条約湿地に登録され、絶滅危惧  
種を含む多くの動植物が生息・生育する自然の  
宝庫となっています。3つ目の宝は、本場結城紬で  
す。本日は皆様にお披露目するために、着てまい  
りました。結城紬は、結城が本場と思われている  
方もいらっしゃいますが、実はその6割が小山市産

出でございます。全過程を手作業で行う、日本最  
古で世界唯一の絹織物の技法が認められ、2010  
年11月16日にユネスコ無形文化遺産に登録され  
ました。本場結城紬をはじめとする歴史と文化が  
世界の宝でございます。

次に、小山市の概要を紹介させていただきます。  
当市は、2012年世界のラムサール条約湿地に登  
録された渡良瀬遊水地をはじめとする豊かな「自  
然」と、2010年世界のユネスコ無形文化遺産に登  
録された本場結城紬をはじめとする古い「文化と  
歴史」があります(図-1)。とくに、徳川三百年を決  
定づけたと言われる、天下分け目の軍議、「小山  
評定」の開かれた「開運のまち」であります。

本日は、7市1県からお集まりいただいております。関  
東地方は小山市だけではありませんが、東京圏から60



図-1

km、新幹線でわずか42分、鉄道・国道ともに交差する交通の要衝地です。さらに来年、圏央道が開通しますと、そこから15分という優れた立地利便性から、現在も人口が増加し続けております。約16万6千人の栃木県第2の南都です。

そして、本日の地方創生のテーマといたしまして、渡良瀬遊水地の活用ということでございます。それでは、2つ目の宝である渡良瀬遊水地の概要についてご説明いたします。小山市南西端に位置する渡良瀬遊水地は、面積が約3,300haであり、栃木県小山市・栃木市・野木町、群馬県板倉町、埼玉県加須市、茨城県古河市の4県4市2町にまたがる、わが国最大の遊水地です。渡良瀬川・思川・巴波川の3河川が流れ込み、洪水を一時的にため込み、東京を守っている調節池で、利根川治水の要です。1922年の完成以来、90年以上が経過し、自然の宝庫となっています。右下の写真は、本年9月9日に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」による出水の状況で、上空から撮影されたものです。今回の出水での総貯留量は、約8,600万 $m^3$ 、東京ドーム約70杯分にもなります。

我が小山市も、9月の「平成27年9月関東・東北豪雨」で、大変大きな水害を受けました。降り始めからの流域平均降雨量が450.3mmと、これまでの最多雨量を記録しました。しかし、この渡良瀬遊水地がその機能を遺憾なく発揮しまして、約3,000万 $m^3$ の水を貯めてくれました。

第2調節池の越流堤から、思川の洪水流の流入が始まり、緊急的な対応として、第2排水門を開けて思川の洪水流を取り込み、思川の水位上昇を抑えることができました。結果として、乙女水位観測所の水位は、計画高水位を1.21m超える9.95mと観測以来過去最高を記録し、堤防天端付近まで迫ったものの、その後水位は低下し、惨事を免れることができました。思川が決壊しなかったというのは、まさにこの渡良瀬遊水地のおかげではないか、奇跡ではないかと考えているところであり

ます。

自然の宝庫である渡良瀬遊水地には絶滅危惧種183種を含む約3,000種の生き物たちが生息・生育しています。スライドは植物の絶滅危惧種であるトネハナヤスリ、タチスミレ、アゼオトギリ、鳥類の絶滅危惧種であるチュウヒとハヤブサです。また、夏の終わりの渡良瀬遊水地には、子育てを終えて南の島へ帰る前のツバメ、約10万羽が集まり、日没とともに一斉にヨシ原にねぐら入りする様子を観察することができます。そして、初冬になると、タカ科の一種であるチュウヒが越冬のためロシアからやってきます。まさに自然の宝庫となっております。

このように自然豊かな渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されるまでの経緯についてご説明いたします(図-2)。皆様と協力して湿地登録に努力してまいりました。今から7年前の2008年5月18日に開催されましたシンポジウム、「みんなで考えよう 渡良瀬遊水地の賢明な利用」において、私がいち早く渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録への賛意を表明し、2010年9月28日に、当市市議会が「渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録に関する陳情書」を採択いたしました。

その後、農家の皆さん、自然保護団体などと、い

**ラムサール条約湿地登録までの経緯**

- ① **2008年5月18日**  
・シンポジウム「みんなで考えよう 渡良瀬遊水地の賢明な利用」  
～小山市長がいち早く渡良瀬遊水地登録への賛意を表明～
- ② **2010年9月28日**  
・小山市議会が「渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録に関する陳情書」を採択。
- ③ **2012年2月28日**  
・治水推進団体と自然保護3団体が治水機能の向上と湿地の保全・再生に関する相互協力の誓約書締結
- ④ **2012年3月26日**  
・関係4県4市2町の首長が鳥獣保護区の国指定に係る公聴会で賛意の意見陳述
- ⑤ **2012年5月22日**  
・日本国がラムサール条約事務局へ登録動きかけに関する「ラムサール条約湿地情報票」を提出
- ⑥ **2012年7月3日**  
・ルーマニアで開催されたラムサールCOP11において、ラムサール条約湿地登録




図-2

ろいろな話し合いがありました。その翌々年の2012年2月28日に、治水推進団体と自然保護3団体が治水機能の向上と湿地の保全・再生に関する相互協力の誓約書を締結し、同年3月26日に、関係4県4市2町の首長が鳥獣保護区の国指定に係る公聴会で賛意の意見を陳述、同年5月22日に日本国がラムサール条約事務局へ登録働きかけに関する「ラムサール条約湿地情報票」を提出されました。そして、同年7月3日にルーマニアのブカレストで開催されたラムサールCOP11において、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されました。

ラムサール条約湿地に登録されましたので、湿地の保全はもちろんのこと、賢明な活用も行うことになりました(図-3)。本市では、渡良瀬遊水地を核とした地域振興・経済の活性化を図る「地方創生」の目玉として、ラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地の「賢明な活用の3本柱」を推進しています。まず第1に、治水機能確保を最優先とした「エコミュージアム化」、第2に、「コウノトリ・トキの野生復帰」、そして第3に、「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」に努めております。渡良瀬遊水地を活用しまして、地方創生の要にしていこうということで、賢明な活用の取り組みを始めたところでございます。

はじめに、第1の柱、治水機能確保を最優先とした「エコミュージアム化」についてです。これは、小山市の生井桜づつみから見た渡良瀬遊水地第2調節池で、富士山を望むことができる関東の富士見百景となっています(図-4)。富士山はこの堤防からちょうど130km南方の位置にあります。秋から冬の空気の澄んだときには、世界文化遺産の富士山がとくにくっきりとよく見えます。一帯がヨシ原となっておりませんが、かつて昭和30年代までは、大小の池沼が点在し、水生植物や湿性植物などの群落も多く見られました。この渡良瀬遊水地の調節池も現在90年経ちまして、河川水位の低下に伴う地下水位の低下によって、乾燥化が進み、その結果、遊水地特有の貴重な在来の植生が失われ、さらにセイタカアワダチソウなどの侵略的な外来種が拡大するなど影響が生じていました。

そのような湿地環境の変化を踏まえ、より豊かな自然があった頃の原風景の再現を目標として、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会が1999年に策定したのが、左側の図の「エコミュージアムプラン」です(図-5)。真ん中の図は、国土交通省利根川上流河川事務所が2010年3月に策定した「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」で、治水機能の向上と、湿地の保全・再生を図るものです。そして、右側の図は、これらの計画

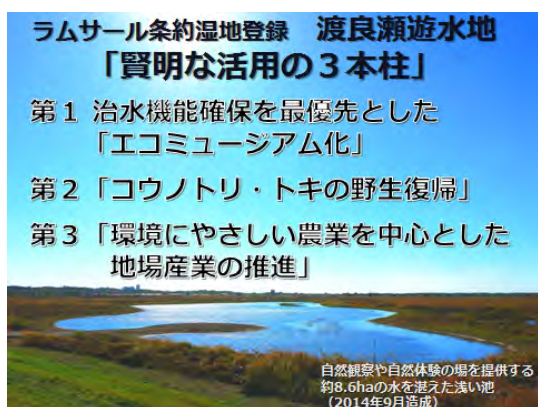


図-3



図-4

を具現化するため、当市が、2015年3月に策定した「渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画」です。

当市の渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画では、その目標とする姿を『豊かな自然があった頃の原風景の再現!みんなで「創る」、  
「活用する」、「育て・支える」、自然観察・自然体験の拠点』としています(図-6)。渡良瀬遊水地は昔20%程度が湿地だったわけです。乾燥化が進んだこの遊水地を国土交通省が渡良瀬遊水地第2調節池の掘削により「浅い池」、「深い池」を造成していくことになりました。これが約8.6haの浅い池でございませう。今後、面積の20%程度まで湿地を再生していこうということになっています。ま

た、それらをつなぐ「水路」等を活用し、そこに園路や木道等を整備し、東京圏の小中学生や、親子連れ、ハイカーなどに自然観察や自然体験の場を提供して東京から近いという立地を生かして、第2の尾瀬を目指していこうということで頑張っているところだ。

続きまして、賢明な活用の第2の柱、「コウノトリ・トキの野生復帰」についてです。小山市では、自然放鳥されたコウノトリやトキが、第2調節池及び周辺地域に飛来し、生息できるよう様々な取り組みを行っております(図-7)。左の写真は、昨年10月18日、7羽のコウノトリが飛んできてくれました。27年ぶりに渡良瀬遊水地で確認されたもので、コウノトリの野生復帰に取り組んでいる兵庫県豊岡市から飛来したものです。右の写真は、本年4月25日に渡良瀬遊水地に隣接する小山市生井地区に1羽のコウノトリが飛来したもので、水田に舞い降り立ったのが確認されました。当市におけるコウノトリ・トキの野生復帰の実現も近いとの思い、期待を一層強ういたしました。

「コウノトリ・トキの野生復帰」に向けた取り組みのひとつ目として、「関東初のトキ分散飼育を実施する自治体に向けての調査・研究」を昨年度から行っています。国の「トキ野生復帰ロードマップ」に合わせ、トキの分散飼育を目指しており、トキ分散



図-5

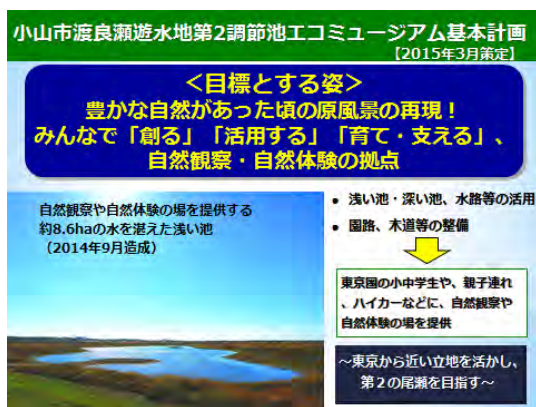


図-6



図-7

飼育可能性の研究としまして、先行自治体である新潟県長岡市、島根県出雲市の取り組みや、分散飼育に必要な条件等の勉強会を実施しています。

また、トキの生息適地に関する調査としまして、渡良瀬遊水地内で2カ所、市内を流れる思川の流域で3カ所、合わせて5ヶ所において、採餌環境及び営巣環境調査を実施しています。図の赤色の丸が調査を実施した地点になります。

2つ目の「エサ場の確保」の取り組みとしまして、当市では「ふゆみずたんぼ・なつみずたんぼ等の拡大」を行っています(図-8)。無農薬・無化学肥料栽培により、冬に田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」は、今年で取り組み始めてから4年目を迎え、面積が7haに拡大しました。「なつみずたんぼ」は、今年から取り組みを始めました。53戸の農家が42haの田んぼで、麦を刈った後、夏に水を張っています。減農薬・減化学肥料による特別栽培米の「生井っ子」は、今年度25戸の農家が40haの田んぼで栽培しています。江(深み)は、ふゆみずたんぼの中干し期の水生生物の避難場所となり、水田魚道は、ふゆみずたんぼに設置することで、水路にいるタモロコやドジョウなどの魚が田んぼと行き来できるようになります。これらの多様な生き物を育む田んぼの環境整備ということで、餌場の確

保などを図っているところです。この餌場の確保には農家の方々が全面的に協力してくださっており、大変嬉しく思っております。

3つ目の「営巣の場づくり」に向けての取り組みですが、餌場環境とともに、コウノトリが飛来した際に、安心して巣づくりを行える場所が必要となります。そのため、2基のコウノトリ人工巣塔を渡良瀬遊水地に近く、ふゆみずたんぼ・なつみずたんぼに隣接する農道沿いに設置いたしました(図-9)。子どもたちをはじめ、地元の方に温かく見守ってもらえるよう、1基目は幼稚園の近くに、2基目は小学校の近くとしました。この人工巣塔がコウノトリの野生復帰に向けたシンボルとなり、市民の方が自然環境などに、より一層の関心を持っていただけるきっかけになればと考えております。

続きまして、賢明な活用の第3の柱、「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」に向けた取り組みとしまして、無農薬・無化学肥料の「ラムサールふゆみずたんぼ米」の生産拡大、減農薬・減化学肥料の「生井っ子」の生産拡大、「ラムサールふゆみずたんぼ米」を活用した日本酒の生産、農家の経営所得の安定・向上を図るための川魚「ホンモロコ」養殖の拡大、市内小中学校へのヨシズ設置やヨシ紙・ヨシ堆肥などヨシ産業の振興に努めております(図-10)。

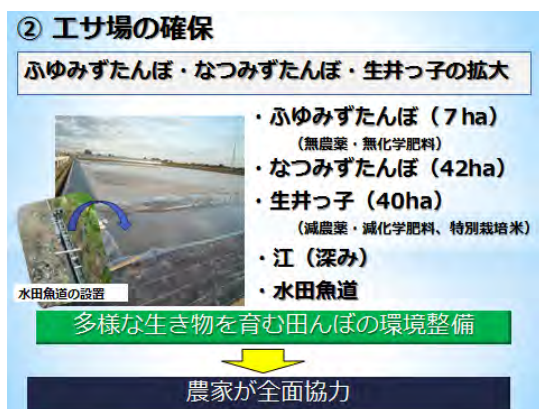


図-8



図-9

ひとつ目の取り組みは、無農薬・無化学肥料の「ラムサールふゆみずたんぼ米」の生産拡大です。農薬や化学肥料に頼らない、安全・安心な、生き物を育む農業を推進しています。ラムサールの名前をお借りしているラムサールふゆみずたんぼ米は、冬に田んぼに水を張ることによって、そこに生息する生きものの働きにより、雑草の生育を抑制したり、肥料成分をつくり出して出来上がるお米で、多くの生きものを育てています。昨年度は8戸の農家が、面積4haで実施しましたが、今年度は11戸の農家が、面積を7haに拡大し、実施していただいております。おいしく、安全・安心なことから、慣行栽培のコシヒカリより高く販売することができています(図-11)。

2つ目の取り組みは、減農薬・減化学肥料の「生井っ子」の生産拡大です。当市の地域に生井というところがあり、そこからとった「生井っ子」は、減農薬・減化学肥料の特別栽培米です。2004年から減農薬・減化学肥料の取り組みが始まり、2006年に15名、面積15haで「生井っ子」プロジェクトが設立されました。栽培講習会の実施等により、栽培技術の向上が図られ、消費者の認知度と評価が高まり、高単価で販売することができており、今では25戸の農家により面積40haまで拡大しています。

3つ目の取り組みは、ラムサール「ふゆみずたんぼ米」を活用した日本酒の生産です(図-12)。当市には、5つの蔵元があります。そのひとつの酒蔵である杉田酒造さんのご協力を得て、ラムサール「ふゆみずたんぼ米」のお酒を造っていただいております。一昨年度の生産本数は3,500本、昨年度は4,900本となっています。一昨年度に銀ラベルの本醸造酒、昨年度に金ラベルの純米吟醸酒、そして今年度はプラチナラベルの大吟醸酒を造っているところです。徐々に品質も上がり、生産量も増えているところです。

4つ目の取り組みは、農家の経営所得の安定・向上を図るための川魚「ホンモロコ」養殖の拡大です。ホンモロコとは、琵琶湖特産のコイ科の魚

第3 環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進

- ① 無農薬・無化学肥料の「ラムサールふゆみずたんぼ米」の生産拡大
- ② 減農薬・減化学肥料(特別栽培米)の「生井っ子」の生産拡大
- ③ 「ラムサールふゆみずたんぼ米」を活用した、無農薬・無化学肥料のコシヒカリの日本酒の生産
- ④ 農家の経営所得の安定・向上を図るための川魚「ホンモロコ」養殖の拡大
- ⑤ 市内小中学校へのヨシシ設置やヨシ紙・ヨシ堆肥などヨシ産業の振興
- ⑥ 国内最大の約1,500haのヨシを活用してのバイオマス発電

図-10

①無農薬・無化学肥料の「ラムサールふゆみずたんぼ米」の生産拡大

	2014年度	2015年度
実施者数:	8戸	⇒ 11戸
面積:	4ha	⇒ 7ha

ラムサールふゆみずたんぼ米

図-11

③「ラムサールふゆみずたんぼ米」を活用した日本酒の生産

●小山市の酒蔵：5軒

	2013年度	2014年度
●生産本数:	3,500本	⇒ 4,900本

杉田酒造の酒蔵(小山市上泉)

図-12

で、成魚は15cm程になり、高級食材として料亭向けなどにも出荷されているものです。ホンモロコの実験養殖の取り組みを始めた2013年度は、養殖池面積5aでしたが、昨年度は20a、そして、今年度は25aへと拡大し、実施していただいております。学校給食や個人等にも大変好評をいただいています。頭先からしっぽまで全部食べられるということで、特に子どもさん、高齢者に人気です。

5つ目の取り組みは、市内小中学校へのヨシズ設置やヨシ紙・ヨシ堆肥などヨシ産業の振興です。渡良瀬遊水地に自生するヨシを活用して、「ヨシ産業の振興」を図るものです(図-13)。当市では、市内全小・中学校38校へのエアコン設置とあわせて、各教室外に節電対策の切り札として、「温度を2度下げる」効果のあるヨシズを、2013年度から設置しています。これまでに設置したヨシズは1,000枚を超え、今後は節電効果のあるヨシズを隣接市町から全国へと広めてまいります。また、ヨシ紙に加工して、小中学校を卒業する児童・生徒に、ヨシ紙で作られた卒業証書をお渡ししました。渡良瀬遊水地には、国内最大の約1,500haのヨシ原があり、ヨシの更なる有効活用を図るため、ヨシを活用したバイオマス発電の実現に向けて、先進地の調査や大学等と連携した研究を進めてまいります。



図-13

当市では、人口の現状と将来の展望を示す人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、今後5ヶ年の基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策等をまとめた「小山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を本年10月に策定いたしました(図-14)。総合戦略の基本目標として、「産業の振興による新たな雇用の創出」、「新しい人の流れの創出」、「結婚・出産・子育ての希望の実現」、「持続可能な地域づくり」を掲げています。2つ目の基本目標である「新しい人の流れの創出」の主な取り組みとして、「渡良瀬遊水地の観光地化」を推進してまいります。「渡良瀬遊水地」を「地方創生の柱」として、多くの人を受け入れる交流施設として、直売所、加工所、農村食堂、宿泊研修、温泉施設等を整備し、インバウンド対応の観光地化による交流人口の増大を図ってまいります。

これまでにご説明しました「賢明な活用の3本柱」を実現するため、2014年3月に「渡良瀬遊水地関連振興5ヶ年計画」を策定いたしました。2014年度から2018年度まで5ヶ年の年次計画により、第1、第2、第3の賢明な活用のほかに、観光客の導入、おもてなし体制、受け入れ施設ということで、周辺市町との連携、受け入れ体制の整備等、様々な事業を展開してまいります。

渡良瀬遊水地の観光地化のイメージを具体的

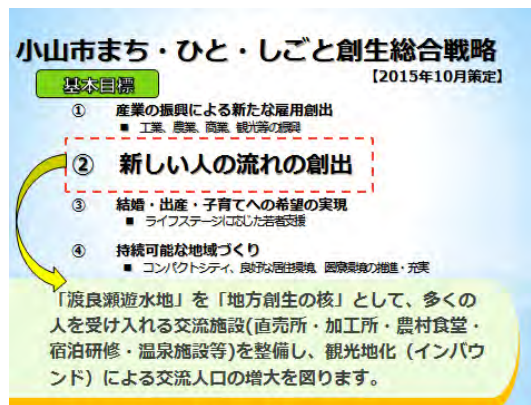


図-14

に表したものです。東京圏から訪れた親子連れなどが自然を満喫、満足していただくため、2泊3日での様々な体験ができるよう考えたものです(図-15)。1日目は、渡良瀬遊水地の貴重な動植物の自然観察やボートを使った水辺での体験。2日目は、都会では体験できない田植えや稲刈りなどを昔ながらのやり方での農業体験。3日目は、雄大な渡良瀬遊水地でのサイクリングなどの遊び。そして、安全・安心なラムサールふゆみずたんぼ米や名物のナマズ料理など地元の食を満喫していただき、温泉で疲れを癒してもらう。2泊3日で、東京圏の親子連れやハイカーを渡良瀬遊水地に呼び込もうということで計画をしているところでございます。

私が思い描く渡良瀬遊水地の未来につきましては、冒頭でもお話ししましたが、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会が策定した「エコミュージアムプラン」にあるように、より豊かな自然があった頃の渡良瀬の原風景である湿地環境を再現することです(図-16)。そのために、かつて見られた良好な水辺環境や貴重な動植物が生息・生育する魅力的な湿地環境を取り戻す取り組みを進めてまいります。そして、ワイズ・ユースの観点のもと、渡良瀬遊水地が自然観察や自然体験の拠点となり、東京圏の小中学生や親子連れ、ハイ

カー等、数多くの人を呼び込んで、地方創生の目玉にしようということでもあります。

渡良瀬遊水地及び周辺地域は、水とみどりに恵まれた良好な自然環境が形成されたエコロジカル・ネットワークの核となっています。おかげをもちまして、2015年11月17日、渡良瀬遊水地周辺にコウノトリを呼び込もうということで、小山市だけでなく、関係4県、6市、4町により、豊かな生態系の指標として、水辺生態系の高次消費者であるコウノトリが生息する環境を目指す「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」が、設立されました。協議会は、有識者、国・県の関係行政機関、周辺10市町の首長により構成されており、今後、多様な主体が協働・連携して、自然環境の保全・再生を推進し、賑わいのある地域振興・経済活性化方策に取り組んでまいります。

国土交通省の利根川上流河川事務所が音頭を取ってくださいます、小山市の計画を全渡良瀬遊水地で実現していこうではないではないかということになり、私達も大変嬉しく思っているところでございます。このように地方創生の要として、渡良瀬遊水地を活用してまいりたい、これが小山市の計画でございます。今後とも皆様どうぞ引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。ありがとうございました。



図-15



図-16